

## 信徒教化の内容とそのあり方

鎌田行学

(愛知県妙恩寺住職)

私は僧侶として、そうしたいから、そうせずにおれないから、とにかく一所懸命やってきた。皆さんのお手元に差し上げた「信徒教化の内容とそのあり方」という冊子は、私の寺の広報部がまとめたものである。また、『珠』という教誌は信徒への施本だが、これも信徒の浄財を出し合って作っている。

次に、教化の内容だが、私のところでは「家族ぐるみの信仰」が目標である(注)遺文『生死一大事血脈鈔』から「信心の血脈なくんば法華経を持つとも無益なり」を引用、説明をしている)。

さて、小家族の多い現代において家庭内の親子関係の変化はいろいろある。これを年代別にわけて、どんな問題が持ち込まれるかという事を心において、家族ぐるみの信仰をさせるにはどのような形がいいか、また、家族

和合していくのにならうか、という事について、一番先にお話をするのは因縁の話である。それは祖先から受けた因縁、前生の因縁、今生の因縁の話をして一負をあげてもらおう。そこには「嫁と姑」「夫婦和合」「子供を不良化を防ぐ」話など例をとって説明する。

私共が導くという事は、お互いが苦しみを分かち合うことだと思っている。相談にこられる人は、自我功利が強く、悩み、苦しみから逃れたいというだけで訪れる。仏の教えによつて心の建直しをしよう等という事は、ほとんど考えていない。そこに導きのむずかしさがあるわけである。こういう人をどう導くか、私の場合を述べてみる。こういう人はほとんど自分勝手の人が多く、人からの行為を有難いと感じた事がなくて、有難いと感じさせることが先決である。新聞広告、その他、人生相談の内容がズラリと並んでいる。悩んでいる人が多いという事である。家相・墓相、なんでも勉強するよう、いつでも相談にのれるよう「勉強せねばあかんよ」と弟子たちにもいつている。それは仮説である。形の面から入り、やがて心の問題に入り、そこで法華経が説かれるわ

けである。腹の中で笑うような事があっても、その人と共に考えねばいけない。皆さんにお渡しした資料の中には、因縁話にはじまり、病の原因、恋愛、結婚、縁談、商売の方位、家相、墓相、いろいろ書いてある。このような事は自分では好きではないが、その迷った心をこちらに向けるまでの辛抱が大事なのである。

次に応待の仕方であるが、タイミングが大事だと思う。お客がみえても、お茶を入れる間もそこで教化をするという態度が大事である。相手の立場を尊重してやれば、無駄話のようにみえても有意義で楽しい話にかかわると思う。個人教化・信徒教化づくりには、こうした要素が大事なことだと思う。そして未信徒のままの人でも「困ったらいつでもきなはれ」といつてやる。

そういう経過をたどり信徒になると、護持会申込書に書いてもらい、檀信徒だけでなく信徒にも先祖供養をさせる。これは信徒をのぼしていく方法と考え、私は大事にしている。こうして護持会に入っていくと経本・袈裟・珠数をそろえてもらい、『珠』を施本する。そして「拝みあう」「朝夕のおつとめ」ということを徹底する。これは

絶対条件である。各地で班を作り、題目講、それぞれの祈願、声明の練習、体験談などもしている。また、月経も月日はたっていないが、ねらいはお経をあげた後、家族間の話し合いを特色としている。そして報告書を出させている。その他、幼児のための「竹の子会」、その幼児たちが大きくなると「若竹会」、青年と親を含めた集まり「自習会」と、家族総ぐるみで信行活動を盛り上げていく。

こうした家族・仲間のふれ合いの中から本物の信仰が生まれてくると、私は確信している。私はよく法華経を引用したあと、「あなたはこの世に何しに生まれてきはつた」という。そして、この世の中に人を救うため、大任をもって仏様から命じられて来た大事な人なのだ、といつて教化をはじめるのである。

## 修法と教化

宮川了篤

(立正大学講師)

現在私は、小さな町道場におります。ここにおります